

会議開催記録

会議名	令和2年度 第1回 菊川市総合教育会議
日 時	令和2年10月21日（水）13:30～15:00
場 所	菊川市役所小笠支所 会議棟
出席者	赤堀副市長 松本教育長 松下彰教育委員 笹瀬昌子教育委員 岡本直彦教育委員 伊藤教育委員 事務局（総務部長、教育文化部長、こども未来部長、総務課長、教育総務課長、 学校教育課長）
欠席者	なし
内 容	1 開会 （1）市長挨拶 （2）教育長挨拶 2 協議事項 （1）菊川市におけるGIGAスクール構想の方向性について （2）その他 3 閉会
会議要旨	<p>1 開 会</p> <p>・互礼</p> <p>(1) 市長挨拶（代理：赤堀副市長）</p> <p>皆さんこんにちは。大変お忙しいところ、菊川市総合教育会議に出席をいただきましてありがとうございます。本来でしたら市長が出席するところですが、本日どうしても出席適いませんでしたので、代わって参加をさせていただきました。市長からも、くれぐれもよろしくとのことでございます。</p> <p>朝晩、大分涼しくなりまして、秋の深まりが感じられる良い季節になってきたわけですが、良い季節と同時にですね、台風季節でもあります。今年はまだ台風は上陸してないのですが、昨年台風19号でこの下平川がかなり被災をしたのですが、菊川市全体で床下が141件、床上も40数件、浸水被害にあいました。国交省と静岡県と、菊川が流れております菊川市とか掛川市で、菊川流域の治水協議会というものを設けまして、早速ですねその水害対策を今考えているところですが、まずは昨年から今年にかけて、皆さん気がついた方もおられると思いますが、丹野川とか牛湫川がだいぶ綺麗になったと思いますけども、河道の掘削といたしまして、要するに川の川底をさらってくれています。2か年で、全体で20万立米出すって言うふうに言っています。20万立米がどのくらいかと言いますと、1ヘクタールですね1万平方メートルですから。100m四方のところ、20メートル積み上がった分くらいかなりの土砂を出していただけたということで、流れが良くなるのではないかとこのように思っているところでございます。</p> <p>また普段であれば、この季節は秋の祭典、あるいは各地区の地区センター祭り、そして、菊川産業祭などのイベントが開催される時期でございます。ただ今年はずいぶん、新型コロナウイルス感染症の流行によりまして、拡大防止ということ</p>

で残念ながら各種の行事が中止或いは縮小と聞いておるところでございます。地域の親睦を深める貴重な場ではありますが、今は感染の予防が第一ということで、皆様の御協力をお願いしたいと思っております。

今日の新聞を御覧になられたかと思えますけども、毎月この時期に県内の35市町の前の月の人口動態が新聞掲載されます。9月分ですが、35市町で菊川市が12人増えて、一番増えたのが小山町で19人、菊川市が12人、河津町が9人、袋井市が5人です。あとの31市町はみんな減少しています。菊川市の人口は、平成27年度から増加に転じまして、昨年度までの5ヶ年で795人増えたんです。4月まで増えていたのですが。5月以降、やっぱりコロナの影響で5月から8月までの4ヶ月間で127人減少しました。9月にやっとこれだけ戻ったということなのですが、実は午前中、ハローワークの所長さんと少し話す機会がありまして、今、掛川のハローワーク管内の求人倍率が0.58なんです。4月に1倍を切りましてずっと低下傾向です。所長がおっしゃるには、8月現在で0.58で、まだこれ正式に公表されてないのですが、9月はちょっと持ち直しました。でも10月はやっぱりまた下降気味ですねっておっしゃっていたのですが、やはりしばらくの間でさね上がったり下がったりということもあるのかなと思っています。菊川市の人口はですね、もう自然動態は、わずかですけれどもずっと減少傾向にあるものですから、社会動態、いわゆる転入転出で多くの人に入ってきてもらわないと増えていかないという状況になっていますので、どうしても景気が影響してきますので、コロナの終息とですね、景気が早く回復をしていただきたいと願っているところでございます。

さて、本日の総合教育会議でございますが、これまでも菊川市におきましては、学校のICT環境整備と、ICTを活用した学習活動の充実を進めてきたところでございますが、このコロナの影響で経済対策で国がGIGAスクール構想を前倒しするといいますか、補助金を多く付けてまいりました。これによりましてですね、菊川市も計画を加速しまして、環境の整備に取り組んでいるところでございます。こうしたことから、本日は、本市におけるGIGAスクール構想の方向性について説明をいたしますので、皆様方の御意見を賜りたいというふうに考えているところでございます。どうかですね忌憚のない御発言をお願いを申し上げます。以上で挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

(2) 教育長挨拶（松本教育長）

改めまして皆さんこんにちは。本日は令和2年度第1回になりますけども、菊川市総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。この総合教育会議は、御承知のとおり首長と教育委員会が十分な意思疎通を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するというために設置されているものです。そうしたことから本日は、副市長をはじめ担当部局の方々にも参加をいただき、実施していくこととなりますのでよろしくお願いたします。

さて課題となっております新型コロナウイルス感染症対策におきましても、本

当に市長部局と連携を密にしながら、現在進めてきているところでございます。また、教育環境整備ということでは、本当に市長・副市長を初め多くの方々の御理解と御協力のおかげをもちまして、昨年度は、全校の普通教室にエアコンを設置していただきました。そして本年度はさらに、今、副市長からもお話ありましたが、新型コロナウイルス対策の影響もありましたけれども、文科省が進めてまいりましたG I G Aスクール構想における、1人1台端末、これも本当にスピーディーな対応をしていただいているところでございます。昨年、今年と2年続けての本当に大きな事業になったわけですが、まさに即座に御判断いただき進めていただきましたことに、教育委員会としても多くの方々に心より感謝を申し上げる次第でございます。本日は、今申しましたG I G Aスクール構想につきまして、意見交換をしていくわけですが、10月6日になりますけれども、新しくできた担当部署ですが、平井デジタル改革担当相大臣から、実は文科省の萩生田大臣に、義務教育で使用する教科書を原則デジタル化しようという提案があったということが新聞で報道されておりました。また、これはもうテレビ新聞等で御覧になった方がいるかと思えますけど、昨日は、文部科学省が学校と家庭との連絡手段をデジタル化するため、文書のやりとりで慣例となっている保護者の押印の見直しを求める通知、これを昨日発出したというニュースが流れておりました。もうしばらくして本市の教育委員会にも届く予定であります。こうして本当にデジタル化が、このコロナ対策にかなりスピード感をもって進められているのを実感しているところでございます。こんなことを踏まえつつ、本日はG I G Aスクール構想につきまして、忌憚のない御意見を皆様から賜りますようお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

2 協議事項

(1) 菊川市におけるG I G Aスクール構想の方向性について

事務局： それでは次第に沿って進めさせていただきます。それでは次第の2、議事に入ります。まず議事の1、菊川市におけるG I G Aスクール構想の方向性についてですが、まず機器の導入の状況について教育総務課長より御説明いたします。その後続けて今後のG I G Aスクール構想の方向性について、学校教育課長より御説明いたします。それではよろしく願いいたします。

事務局： 教育総務課長です。私からは、菊川市におけるG I G Aスクール構想の方向性についての1ページ目の1の構想の背景・目的から、3の概算整備費用まで説明をいたします。2ページ目の4の1人1台端末の活用構想につきましては、学校教育課長より説明をいたします。

1の構想背景・目的ですが、令和元年12月の閣議決定されました、G I G Aスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークの整備と、児童生徒1

人1台端末の整備を目的として、令和5年度までに全学年の児童生徒1人1台端末の環境整備を支援するとされたところです。菊川市においては、国の第2期教育振興計画。平成25年から平成29年における児童生徒用端末3.6人に1台。無線LAN整備率100%と、2018年度から2022年度までの教育のICT化に向けた環境整備5ヶ年計画を見据え、平成27年度から、無線LANとタブレット端末の整備を行い、5人に1台程度、タブレット端末が整備されていることから、GIGAスクール構想の実現は、令和3年度から令和5年度にかけて、1人1台に向けて整備を計画していたところです。本年度に入り、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策により、災害や感染症の発生による学校臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により、全ての子どもの学びを保障できる環境を早期実現させるための国の令和2年度補正予算による、令和2年度限りの補助金を活用し、1人1台に向けて整備を進めていくとともに、誰1人とり残すことのない構成に個別最適化され、創造的に育む学びを実現するため、本年度タブレット端末の1人1台に向けて整備を進めていくものです。

次に2の学校別整備状況及び今後の整備計画ですが、補助金採択基準の児童生徒数は小学校9校、中学校3校の令和元年5月1日現在の3,958人が対象となりまして。iPad整備済み数は802台が各学校に配備され、整備率は小中平均で4.94人に1台となります。1人1台に対しての未整備数は3,156台となりまして、うちGIGAスクールの補助対象となる台数は、2,638台となります。表の下に記載している通り、3人に1台は地方財政措置暫定分であるため、補助対象は、3人に2台となります。そのため未整備数より補助対象を除いた518台が、市単独での購入となります。

次に、電源キャビネットにつきましては、iPadの充電保管庫で、保管庫1台に、iPad40台が、充電保管できるものを想定し、補助対象71台、市単独で14台、計85台の購入を予定しているものですが、現在、端末管理方法を小学校3年生以上は、個人家庭管理を、想定しているため、キャビネット個数は小学校1、2年生の端末保管となりますので記載している数量よりも少なくなります。

次に、3の概算整備費用につきましては、令和2年度第5号補正にて予算計上したもので、補正対象事業費分のiPad購入設定は、2,638台、電源キャビネット購入は71台で補助対象の計は2億7,393万8,280円で、うち補助金が、端末に1台4万5,000円、キャビネットは1台25万円の2分の1の12万5,000円の補助金が交付されるもので、補助金総額は1億2,758万5,000円を見込んでいます。市単独分のiPad購入設定は518台。電源キャビネットの購入は14台で、単独費合計が5,382万6,080円となり、支出額の計が3億2,776万4,360円となります。なお、補助金対象外事業費と市単独事業費には、菊川市に交付される新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が一部充当されています。

i P a dとキャビネットの納入時期であります。i P a dは令和2年9月17日執行の指名競争入札によりすでに発注済みで、令和3年3月12日までに各学校において使用可能となる予定であります。電源キャビネットにつきましては、現在導入台数と、設置箇所の精査を行っているところで、年内に発注を行い、3月までに設置する予定であります。私からは説明は以上となります。

事務局： 学校教育課です。私からは2ページから3ページにかけて、配備後の学校での活用について、現時点で担当課で構想していることについて申し上げます。管理については先ほど教育総務課長からあったとおり、1、2年生は学校で保管し、3年生以上を原則持ち帰りというふうに考えております。大変お金がかかり大きな事業でもございますし、1人1台の市の端末を各家庭に貸し与えるということは今までなかったことでもありますので。子供にも保護者にも大変重く受け止めてもらいたいということとしっかり管理をさせたいということもありますので、何かしらのセレモニーのようなものを年度当初に行って、本人も保護者も大切に使用したいと、そういう気持ちが高まるような、そんなオープニングを予定しております。

2番目に、この導入によってどんな効果が期待できるかということについて5点ほど書きました。3番に、将来的には個別最適化という若干弱気な表現を使っているのですが、個別最適化と口では言いますが、一人一人がそれぞれの能力や興味関心に沿ってそれぞれの学びを進めていくというのは言葉で言うほどなかなか簡単なことではなくて、現在できるところから進めてはいるわけですが、かなり研究を進めなければならないし、事業の方向も変わるだろうし、こういったことも出来るところから進めていきたいなと思っはいますが、本当に教師にもそれぞれの力量をつけなきゃいけないし、子ども自体も自分自身の学びについて調整しながら進めていくという能力がこれから求められます。そういった意味で少し時間がかかるのかなと考えております。

3番は具体的な活用例について少し記載をさせていただきました。例えば1番はG o o g l e社が無料で提供をしてくれているようなシステムを使うと、いろんなデータが子供同士それから子供と先生でやりとりが可能になっていくんじゃないか、こういったことを使いながら出来るだけ日常の学校生活の中に無理なく溶け込むようなそんな取り組みを一つは考えております。特別な道具だから特別なときにしか使わないのではなくて、出来るだけ日常化という中でできそうなことを、今、研究を進めているところでございます。もう一つは、メインになる事業の中における活用です。本日も横地小学校で御覧になって事業の中でいろんな活用例を御覧いただいたと思っておりますけれども、わかりやすい例で言うと、例えばこれまでは、小学校の算数で、例えば文章問題をさあ皆さん解きましょうといったときに、教師がその

文章問題を黒板に書く、丁寧に書く、四角で囲む、皆さんこれを写しましよ
うと言ってノートに書く、子供たちがノートを一生懸命書く、先生はそのノ
ートがちゃんと書けたかどうか机間巡視して見届ける、これだけで10分かか
るんですよ。だから、本当は小学校で算数をやりたいのに。文字を書くた
め10分取られてしまうと、こういったなかなかその効果的っていうか効率的
でない学びの部分があった。こういうところはまさにこのICTの出番で文
字を勉強するときには文字をちゃんと勉強する、算数を勉強するときには算
数に集中して勉強するために時間を効率的に使うっていう、そういった使い
方が1人1台あることによって進むんじゃないかなと、そんなことを考えて
おります。3番目は、これは個別最適化ということにももちろん繋がるかな
と思いますが、いろいろな困り感を持った子供たちに、一つの支援ツールに
なるだろうと、これについては現在配備されているiPadでもかなり進ん
でいるところでございますので、一層これが進展していくかなという期待が
あります。

4番目には今後の研究といって5点ほど挙げましたが、まだまだ私どもも
考えていかなきゃいけないし研究していかなきゃならない項目がたくさん
ございます。菊川市だけではなくて、教員の異動も考えて御前崎や掛川とも
連携をしながら、研究を進めていったり、県の教育委員会にもしっかり研究
して成果を市町に還元するようというところで引き続き働きかけをしてい
るところでございます。概要については以上でございます。お願いします。

【質疑応答】

教育委員： 自宅の方に個人1台ということで使えるということなんですけれども、
インターネット環境がない家庭はどのようにしていくのか教えてください。

事務局： 学校教育課長です。事前調査、去年行った調査だとインターネット環境が
ないという家庭は、本当に一握りで3,900人中20人くらいでしたかね、非常
に少ないわけなんですけれども、Wi-Fi環境となると若干環境は整ってない
家庭がございます。先ずはですが、使い方の入り口としては、インターネッ
トを前提としない使い方からまずはスタートしようかなと思っています。端
末は他市で導入進めているGoogle Chromeという別の端末があ
るんですけれども、それらはかなりインターネットに依存していないと使え
ない端末ですが、iPadはある程度iPadの中にいろんなデータ保存で
きますので、そういった形で学校で必要なものを取り込む。取り込んだもの
を家に持ち帰る。家でやったものは学校に来れば学校のWi-Fiに繋がっ
て提出できるっていうような、そんな活用も可能ですので、まずはインター
ネットに依存しない使い方からスタートして、その中でさらに家庭の環境調
査をしながらどのくらいの家庭にWi-Fi環境の提供が必要なのかって

いう調査をして、支援が必要な家庭にはWi-Fiのルーターの貸し出しっ
ていうことも今、研究をしているところでございます。以上です。

教育委員： 今回、市の方でも導入を進めてきていただいて、本当に、学校にもう菊
川市ではiPadはものすごい活用されてるのは、今日の横地小なんかで
見て分かるとおりでと思います。今回、国の指導もあって一気に進むわけ
ですけど、その分ちょっとずつだと更新の時期もちょっとずつ台数を交換
していけばいいと思うんですけど、今回、五分の四ほど、一気に変えるわ
けですから、何年後かにその交換時期が必ず来ると思います。そういうと
きにどういう対応をするかっていうのを、まだちょっと先の話なんでこの
価格は決まってないと思うんですけど、概略だけでも説明いただければと
思います。

事務局： 教育総務課長です。それこそ今現在入れているiPadも7年間使用する
というような状況での考え方をしておりますが、型が変わりますと、世代が
代わりますとセキュリティー上問題が出てくる部分もありますので、5年か
ら7年ぐらいでは更新の時期が出てくる話になります。ただやはり先ほど教
育委員さんが言われるように、多額の費用がかかりますので、今後、国等に
補助制度の創設等の要望もしていきたいというような形で考えているとこ
ろでありますという。

教育委員： ありがとうございます。今の子ども達が大人になっていく、益々、情報
を取扱うという機会が増えてくると思うんですけども、扱うためのマナ
ーとか。モラルとか機能だけではなく、やっぱり全人格的なのも、正しく
判断する力っていうのをつけていただきたいと思いますので、どのように
教育されていくのか教えてください。

事務局： ありがとうございます学校教育課長です。これまでも菊川市はいわゆる情
報モラル教育と呼んでいます。いろいろな教材を使いながら年間計画にも位
置づけて、発達段階に応じて、健康上の問題であるとか、ネットの情報の取
り扱いの問題であるとかそういったことも含めてどうやってその端末と上
手につきあうかっていう教育は進めてきました。ただし、今度持ち帰りとな
ると、またもう一步進んだ、その端末との付き合い方について、これは保護
者を巻き込んだ形の教育が必要かなと考えております。そのための準備も、
それまでに、配備までにはさらに一步進んだこの資料が必要かなっていうこ
とを痛感しております。以上です。

教育委員： 個人的にはですね。非常に不勉強でして。このGIGAスクールにつつま
して、ほとんど勉強不足。正直言いまして。二、三日前にインターネット

で調べてこういうものかなっていうことを得たと、その程度です。その者が、こういう質問をすれば大変失礼かもしれませんが、まず一点目は、子供さんを持っている保護者の皆様方が、このG I G Aスクール構想についてどの程度理解をされてるのかな。勝手な想像ですけども、なかなか忙しくて、文科省から幾ら説明があったとしても、興味関心がない保護者の方については、G I G Aスクールって一体何なのかなあと、そういう受けとめ方の保護者の方が多いのではないかなと。ならば、先ほど学校教育課長からお話があったように、もちろん国とか県から補助金があるとはいえ、大切な菊川市の税金をですね、これだけたくさんのお金を投入するわけですね。ていうことは、その辺もですね、オープニングセレモニーの計画で御説明されるということで、私はぜひこれはやっていただきたい。それじゃやっぱり保護者の理解を得てスタートを切れない限りは、子供さんがタブレットを家へ持ってきて、親はただただびっくりするだけで何をやってるのかなと。そうすると、なかなかいわゆる教育効果というか学びが進んでいかないのかなあという感じがしますので、ぜひそれはお願いしたいと思います。それからですね。何かわからない者がこんな質問をしてはいけないんですが、私、古い人間ですので、学校っていうね、これ民間会社じゃないですから、学校のあり方というのは、昔からね、やはり何を子供たちに、子供たちのどういうことを育てるところが学校なのかって考えますとね、昔から、「知育」「徳育」「体育」この基本線は、時代がどう変わろうと、基本だと思うんですね。今ここでG I G Aスクール構想の方向性の資料を読ませていただきますと、確かにね、こういう形で端末を使って学校でもそれから家庭でもこういう機器を使えば、目指す効果は、学び「知」の部分は伸びると思います。確かにその資料の方の目指す効果については、(1) (2) (3) (4) 全て学びという言葉が使ってますね。ていうことは、「知」は多分伸びると思いますね。「体」もね、いわゆる跳び箱の飛び方とか、あるいは体操の仕方とか、サッカーのやり方とか、それは、従来に比べて、相当、子供たちは、得る情報は大きいから伸びます。問題はね、やっぱり「徳」の部分。心の部分をどう育てるかっていうことについては、これはG I G Aスクール構想ですから触れてないですけども、私はやっぱり学校教育の中でどうしても心の問題、やっぱり学校で一番大事にするべきは、やはり人間としてどういうふう生きるか、どういう心を育てるっていうことがね、教師が、やっぱりまず基本的に押さえないとね。いくら「知」が伸びても、まあ伸びないより伸びた方がいいけどね、そこを大事にする。こういう方向で進むというのは世界の大きな流れですから、これはこれでいいと思いますけれども、これから学校で働いていただく教師のあり方、教師の果たす役割は何か。と同時に、保護者もどういうふう子供たちに関わっていくかっていうことがね、やっぱり、研修会ではないけれど、親もやはり勉強をしていくような方向。

だから課題とすれば、教師の果たすべき役割は何か、それをそれぞれの教師一人一人が考えてね、もちろんICTの環境を整備することは大事ですけども、その根底に人間を育てるのが学校であるっていう押さえでね、どういう教育をしていくかということ、ぜひ菊川市の方でも、お考えいただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

事務局： 御意見ありがとうございます。兎角ちょっと私も心配するのが、機械か心かみたいな、そういう何か対極にあるように、私達の世代は若干感じちゃうんですよね。ところが、これからの教育は「知」「徳」「体」全て含めてその三つをバランスよく育てていくためのベースとなる力。学習指導要領にもそう書かれているんですが、バランスよく育てていくためのベースとなる力が課題解決能力であり、情報活用能力っていうふうに記載されている。つまり、切っても切り離せないから、この機械がある中でどうやって心を育てていくか、機械をどうして心の通う道具として使っていくのかっていう、そういう発想で教育を進めていかなきゃいけないっていう、もうちょっと30年前には考えられなかった考え方なんですけど、そういったスタンスに立って、心の教育を進めていく中にも、もう道徳の教科書にこの情報が取り上げられる時代ですので、そういったことも上手に融合しながら、バランスの良い子供たちを育てていかなきゃいけないっていう、そういう考え方というのも含めて、おっしゃるとおりやっぱ保護者の理解もやっぱり欠かせないと思うので、先ほど単に端末を大事に使うってだけではなくって、どういう教育を目指すのか、どういうふうに子供たちと端末と付き合ってもらおうのかっていうね、そういったこともどういうセレモニーが良いかって、今まだ考え中ですけども、子供に対するのはまた別の次元で親にアプローチしていかなきゃいけないなということは感じております。ありがとうございます。

(2) その他

事務局： それでは議事の2、その他に進みたいと思います。教育委員の皆様からそれぞれ御発言いただきたいと思いますけれども、本日の議事に関する内容を、またそれ以外の内容でも構いませんので、何か御意見ございましたら御発言いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

副市長： 代理の身で申し訳ございません。先ほど教育委員から出された問題は、やっぱり私達も非常に大きな問題だというふうにとらえております。今日の説明資料でもお分かりの通り。3,156台を買うのに3億2,700万円掛かります。全体の3,958台を買おうとすると4億1,000万円です。5年使うとして、年間8,000万円ですよね。5年ごとに4億円出せるのか、あるいは毎年8,000万円出せるのかっていうところは、これは非常に財政的な問題ですけども、市としては大きな問題です。課長が申しあげました通り、とにかく自治体として

は、今回に限らず、国の支援というものを引き続いて出していただくようにお願いするっていうのがまず第一でありますけれども、出していただくにしてもですね、全額ということにはならないと思いますので、そこはリース契約にして負担を平準化していくとか、いろいろな方法を考えながらですね、これは継続していかなければならないと思っておりますので、またこのことが、別の事業等にですね、影響を与えないように、私どもといたしましても財政運営をしていきたいと思っておりますけれども、学校の皆さん、それから生徒の皆さんも、大事に使っていただきたいなというふうに思っております。

教育委員： 今日、本当は市長がお見えになられたら聞いてみようかなと思ったんですけど、せっかく副市長がお見えですので、すいませんちょっと御意見をお伺いしたいんですけど。今、中学生でも学校にスマホの持ち込みをOKにしようじゃないかみたいなのが、この前、何かの記事で見たんですけども。その場でわからないことをネットで調べたり。実際、この今言ってる1人1台が進めば、それを使って調べればいいたらうなって自分は思うので、スマホの持ち込み、個人的には自分はやっぱり反対の立場です。ただ、将来的に、やっぱスマホを学校に持ち込むっていう、これ意見なのでいろんな方がいらっしゃると思いますが、副市長は持ち込みに関して、私見で構わないのでどのような御意見をお持ちかなと。すいません。聞いてみたいです。お願いします。

副市長： すいません。直接の答えにならないんですが、私の考え一つ申し上げますと、私はGIGAスクール構想に全く反対ではありません。これはこれで素晴らしいことだし進めていただきたいと思っております。ただ一方でですね、紙の本を読む機会というものを奪って欲しくないと思っております。子供たちが紙の本を読むっていうのは、これやっぱりすごく大事なことだと思っておりますので、GIGAスクール構想を進めながらも、学校の図書室、それから菊川文庫と小笠図書館は、これはさらに充実をしていって、ここにある意味で、先ほど来お話が出てます、子供たちの豊かな情緒を育てるとか、そういうところに繋がってくるんじゃないかなっていうふうな思いもありますので、それはやっていきたいなと思っております。スマホにつきましては、ちょっと私、現場のこともよくわかりませんので。教育長のお考えを。

教育長： イエス、ノーで答えるのが、すいません、ちょっと今、そこまではできません。ただ何が必要でどう使っていくか。これだけね、いろんな機器が出て、スピード感をもって動いている中で、やはり子供たちの判断力とか心の問題、先ほど来言っているそういうことを並行して育てていかないといけない。だから、スマホを一つ持つにしても、そういった部分というのは大きな要素があると思うんです。使い方次第で有効にもなるし、マイナスにもいく

らでもなるんです。ですから、そこをやはりきちっと見定めながらね。だから止めてくってということではないですよ。だからその辺を並行してやりながら、ICTも上手に進めていく必要性は強く感じてます。ですから安易に便利になったからとか、非常に楽っていう表現は良くないですけど、効率的とかいう言葉が頻繁に飛び出しますが、実は、教育の世界はそれだけではやっていけない部分がありますので、やはり根幹となる一番大切な部分を見失わないように、根幹というのはやっぱり心の部分だと思っています、そこをきちっとした中で、スマホにしてもそうですしね、これから1人1台家に持ち帰っていくパソコンにしてもiPadもそうですけど、有効に使うことを研究していきたいなというふうに思っています。答えになるかどうかわかりませんが、そこが大切だと。これから出てくる問題です。また考えてはいますので、ありがとうございました。以上です。

事務局： 貴重な御意見をたくさんありがとうございました。それでは以上をもちまして本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会いたしたいと思っております。長時間にわたる御協議ありがとうございました。最後に互礼を行いますので御起立をお願いします。相互に礼。

3 閉会

以上